

春告草

第104号 平成30年5月2日 進路指導部発行

大学進学にまつわる「お金」のはなし

3期生が受験した大学入試の平均回数が5～6であることを前号で述べた。仮に、国公立大2校、私立大一般入試3校、私大センター利用に1校出願したとすると、センター試験の検定料も含めた受験料の合計は約17万円となる。医学部、歯学部受験となれば受験料も5～6万になるので、さらに高額となる。大学進学には、学力、やる気が必要なことは言うまでもないが、それらに加え「お金」も必要なのだ。今回は、受験や入学手続きにかかる費用や奨学金制度について概略を解説したいと思います。是非、保護者の方にも読んでおいてもらってください。

入試出願から入学手続きまで

国公立大学入学のためには、センター試験と個別試験の両方を受験する必要がある。個別試験は前期、後期の2回の各日程で試験が行われるが、後期試験まで粘る人は少ない(第102号記事参照)ので、国公立大入学を第一に考えるならば、後期受験までを視野に入れた受験プランが必要。センター試験検定料が1万8千円で、国公立大個別試験の受験料は1万7千円である。前期、後期両方に出願する場合は2倍となる。分かっていると思うが、前期、後期とあるが、出願は同時期なので、前期がダメなら後期に出願という訳にはいかない。また、後期に出願しても、前期で合格して入学手続きを済ませると、後期試験への出願資格を失うので、後期の検定料は捨てることになる。二段階選抜で「足切り」されても、同様に検定料は無駄になってしまう。

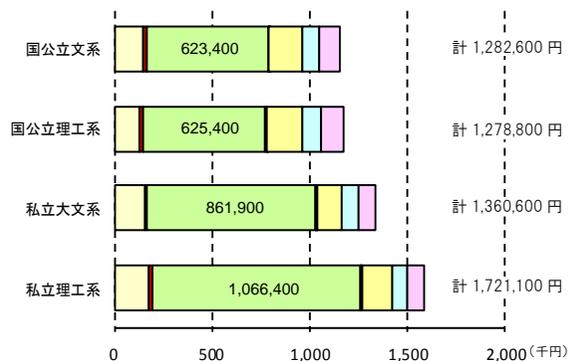
国立大1本という人もいるが、多くは私立大併願を考えるだろう。理想的には、滑り止め、実力相応校、チャレンジ校と難易のレベルを変えて複数校を受験することになる。平均が5～6校というのも頷ける数値だ。10校(回)以上受験したという3期生は20人を超えた(第103号グラフ参照)が、一般受験だけで10以上の入試日程を組むことは、スケジュール的に難しいので、センター利用入試や統一入試など、1回の受験で複数回の入試の判定が受けられるシステムを利用しての数値だと思われる。

前号で併願割引など、受験料を節約できる方法、大学があることを紹介したが、こういった研究を進めることも大切だろう。入試情報は積極的に収集しよう心がけたいものだ。

さて右のグラフは入試出願から入学までにかかった諸費用の合計を、現在通学している大学・学部系統別に集約したものである。データの出典は「2017年度 保護者に聞く新入生調査」概要報告(全国大学生生活協同組合連合会 n=21,310)で、理工系は歯歯薬系を除いた学部の集計である。また、データはすべて自宅通学生の集計分だけをグラフ化したもので、調査項目は右の8項目である。諸費用の合計額の差が学校納付金の差によるものであることは明白で、グラフ中に納付金の平均金額を記入した。平均金額で、国公立大と私立大文系では約23万円、私立理系とは約45万円の差を生じている。

次ページの表は2016年度のデータ(全国578大学 旺文社集計)だが、理・工・農学系学部の平均は約158万円、薬学部は約215万円、医学部や歯学部では何百万

出願から入学までにかかる諸費用



① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

- ① 出願費用(受験料、郵送料など)
- ② 受験のための費用(交通費など)
- ③ 学校納付金(入学金、授業料など)
- ④ 合格発表、入学手続き費用(交通費など)
- ⑤ 入学式出席のための費用(交通費など)
- ⑥ 教科書、教材購入費(教科書、パソコンなど)
- ⑦ 生活用品購入費(電話機、自転車、衣類など)
- ⑧ その他(4月の生活費、保険料など)

円単位のお金が必要となる。

また、納付金で悩むのが複数の大学を受験した場合、先に合格した大学に、とりあえず期限までに入学金や授業料（の一部）を支払わなければいけないということ。他大学に進学し、その大学への入学を辞退しても、納付金（少なくとも入学金）が戻ってこないところがほとんどで、その為の出費が一人平均で約30万円強というアンケート結果もある。余計な出費をしないように受験プランを考える必要があるが、思うようにはいかないことが多いのが現実だ。とはいえ、第一志望の可否が分からない段階では、やむを得ない出費である。

忘れていけないのが、医学部をはじめ歯学部・獣医学部や薬学部（薬剤師養成コース）が6年制であることだ。授業料をはじめとする諸費用が他学部に比べて2年分余計に必要となる。さらに、理学部や工学部、農学部では、大学によって割合は異なるが、学部卒業後、大学院修士課程（2年制）に進学する人も多い。そのための入学金や授業料などの出費が相当あることも忘れてはいけない。

私立大学・学部系統別「初年度納入金平均額」（2016年度）

学部系統	入学金	授業料	初年度納入金
文科系			
文	241,130	758,849	1,288,086
外国語	240,455	752,597	1,287,667
人文・教養・人間科学	240,024	771,911	1,302,717
教育・教員養成	245,466	770,347	1,342,153
法	230,499	731,790	1,218,068
経済・経営・商	231,720	738,492	1,240,366
社会・社会福祉	241,409	763,550	1,301,196
国際関係	232,064	781,071	1,298,042
理工農系			
理	242,164	960,335	1,545,681
工	241,854	997,754	1,588,247
農・獣医畜産・水産	251,475	904,016	1,591,773
医療系			
医	1,273,333	2,749,167	7,455,537
歯	600,000	3,148,824	5,330,706
薬	329,859	1,393,411	2,153,655
看護・医療・栄養	272,513	966,124	1,694,388
その他			
家政・生活科学	249,073	782,244	1,375,517
体育・健康科学	245,178	806,311	1,391,877
芸術	246,315	981,948	1,610,143

入試前予約型給付奨学金導入の大学が増加

受験料割引制度など、私立各大学では志願者増加への経営努力がみられるが、優秀な学生を確保するため、大学独自の給付型奨学金制度を導入しているところもある。

その中でも、最近注目を集めているのが「入試前予約型奨学金制度」である。この制度の特徴は、受験する前にあらかじめ、入学試験に合格したら入学後にこの奨学金を利用する旨を申し込む、というものだ。

申請した後、受験する前に大学が定める諸条件について審査（保護者の年収制限など）があって、その後採用の可否が試験前に通知される。そして受験し、めでたく合格し入学した後、所定の手続きを行うことで、数十万円といった金額が支給されたり、授業料が減免・免除されたりする。給付型なので返済の義務はない。

給付型の奨学金制度はこれまでもあったが、募集が入学後だったり、指定された入試の成績優秀者が対象だったり、募集も数人程度の「狭き門」であることが多かった。しかし、最近の「予約型奨学金」は募集人数が比較的多く、基本的に合格すればよく（対象となる入試の制限や、高校在学時の成績条件があったりもするが）、受験前に奨学金がもらえるかどうか確定していることも多いので、入学後のマネープランが立てやすい。もちろん、日本学生支援機構など他の機関の奨学金も併用できる。

このタイプの奨学金を導入しているのは、私立では首都圏、京阪神といった大都市圏の大規模な大学が多い。対象は首都圏の一都三県以外の受験生としているケースが多いが、立教大学では首都圏出身者を対象とする「セントポール奨学金」を昨年度開設した。成績条件や保護者の収入制限があるが、採用予定者数は約250人で、採用され、合格・入学すれば年額40万円（理学部は60万円）が給付される。入学後、次年度の給付継続の可否について成績の査定があるが、以前より行っている「自由の学府」奨学金の継続率は、2年進級時で約70%、3、4年進級時で80~90%だという。国立大でも東日本を中心に導入校が徐々に増えている。（裏面に今年度入試における実施大学の一部を紹介した。）



立教大学本館 12月には本館前の広場に巨大なクリスマスツリーが点灯する

奨学金のこと

最後に「奨学金」全般について説明します。「奨学金」というと聞こえはよいが、要するに借金である。近年、新聞やテレビで報じられているように、大学卒業後に就職しても低賃金だったり、非正規雇用で不安定な立場だったり、就職先が倒産したりするなど、奨学金を返還できない人が増え、社会問題化している。奨学金を利用するメリットやデメリットを十分に理解して上手に利用していきたいものだ。

奨学金には2タイプ

学生時代に受け取った奨学金を、大学卒業後に返還しなければいけないのが「貸与型」で、返還義務のないのが「給付型」である。

日本学生支援機構（JASSO）は国内で学ぶ学生、留学生の修学支援を目的に設立された行政法人で、同機構が行っている奨学金制度も貸与型と給付型の2種類。このうち、貸与型奨学金は第一種と第二種の2タイプで、成績基準などはそれぞれ右表に示す通りである。貸与型のデメリットは卒業後の返済義務だが、基準は緩やかであり、第二種は採用される可能性も高い。

大学が独自に行っている給付型奨学金は前述のとおりだが、日本学生支援機構でも昨年度より「給付型奨学金制度」をスタートさせた。給付型であるから返済義務がないが、学業成績や家庭の経済状況の審査基準は厳しい。国公立大学生で自宅通学の場合は2万円、自宅外通学の場合は3万円が毎月給付される。私立大学生はそれぞれ3万円、4万円となる。給付型との併用も可能であるから、学費などを良く調べて検討してみてもうだろう。



日本学生支援機構 第1回 大学予約奨学生募集について

上記奨学金の申し込みを希望する生徒は平成30年5月30日（水）までに、経営企画室で応募書類を受領し、必要な手続きをとってください。

- 1 募集対象者 大学・短大、専修学校専門課程に進学希望で、入学後に奨学金の貸与を希望する者
平成29年3月以降の卒業生または来年卒業見込み者で、大学に入学したことのない者
(住民税非課税世帯の方への給付型奨学金もあります)
- 2 奨学金の種類 30年度第1回募集
 - ・第一種(無利子)
 - ・第二種(有利子)
 - ・入学時特別増額貸与奨学金(有利子)第1回のみ
 - ・給付型奨学金 第1回のみ
- 3 貸与期間 平成31年4月から標準修業年限の終期まで
- 4 その他 申請手順は別紙にて案内
- 5 校内締切日

	6年生	既卒生
申請書類受領期限	5月30日(水)	5月30日(水)
校内書類提出締切	6月13日(水) 書類をそろえて経営企画室へ	
スカラネット入力締切	6月20日(水)	6月20日(水)
書類最終提出期限	6月25日(月)	6月25日(月)

※スカラネット入力後、すべての書類をそろえて6月25日までに経営企画室へ提出すること
マイナンバーはスカラネット入力後、直接簡易書留で日本学生支援機構へ提出すること
その他収入に関する提出書類は家計状況申告書を確認し、準備すること

※奨学金ガイドブック <https://www.jasso.go.jp/shogakukin/oyakudachi/guidebook.html>

給付奨学金案内 <https://www.jasso.go.jp/shogakukin/kyufu/index.html>

■ 日本学生支援機構「貸与型奨学金」予約採用の資格や条件

奨学金の種類	学力の基準	年収・所得の上限額	
		給与所得世帯	給与所得世帯以外の世帯
第一種(利息なし)	評定平均値3.5以上(※)	747万円	349万円
第二種(利息あり)	①学業成績が平均水準以上 ②特定分野で特に優れた資質・能力がある ③進学先の学校における学修に意欲があり、学業を確実に修了できる見込みがある	1,100万円	692万円
第一種と第二種の併用	第一種と同じ	686万円	306万円

※経済状況等の理由により、基準未滿でも申し込みは可

2018年度「入試前予約型奨学金」の主な実施例

2018年度入試で「入試前予約型奨学金」制度を導入した大学の中から、都内在住の生徒が申込みできる大学の一部を紹介する。今年度の募集に関しては各大学のHPで確認してください。

また、入学試験優秀者に対する「特別給費奨学金」制度を導入している私立大学も多い。これは、入学試験の成績が特に優秀な受験生に奨学金を給付するもので、出願時の申請は不要で、入学試験の成績優秀者に対して、合格通知時に採用が通知される。原則、授業料相当額が給付(免除)され、給付期間は4年間、年度末に資格継続について審査が行われる。

お茶の水女子大学 “みがかずば”奨学金

【給付額】年額30万円
【給付期間】2年間(各年度で報告書提出)
【採用者数】約25名
【応募条件】一般入試、新フロンティア入試、推薦、高大連携特別入試の出願を予定する、学習成績概評A段階以上の現役生。父母の年収合計が900万円未滿(税込み、事業所得等の場合は414万円未滿)。
【申請期間】平成29年9月1日～20日
【給付までの流れ】書類審査→内定(選考結果は10月中旬に、本人と学校長に通知)→出願・受験・合格・入学手続→正式採用

電気通信大学 UEC修学支援奨学金

【給付額】入学一時金20万円、授業料全額免除
【給付期間】入学一時金は1回、授業料は4年間(2年目以降の継続については、成績等で判定)
【採用者数】男子・女子各5名以内
【応募条件】一般入試の受験予定者。入学後、同大学の教育・広報活動に協力。
【申請期間】平成29年11月1日～12月1日
【給付までの流れ】書類審査→内定(選考結果は1月上旬までに、本人と学校長に通知)→出願・受験→合格・入学手続→正式採用

上智大学 新入生奨学金

【給付額】授業料相当額、授業料半額相当額、授業料3分の1相当額を学業成績と経済状況等を総合判断し採用額を決定
【給付期間】1年間
【応募条件】入試出願者で、上智大学への入学を第一志望とし、経済的理由により入学が困難、かつ出身学校の成績が優秀な者。給与収入で700万円(税込み)、事業所得で400万円が目安だが、詳細は要項で確認のこと。
【申請期間】平成29年12月1日～1月12日
【給付までの流れ】書類審査→出願・受験→内定(入試の合格発表前に郵送で通知)→合格・入学手続→正式採用
 ※看護学科志望者には「歳暮看護奨学金」がある

東京理科大学 新生のいぶき奨学金

【給付額】年額40万円(成績、家計基準については毎年審査を行う)
【給付期間】4年間(薬学部は6年間)
【採用者数】100名
【応募条件】昼間学部の一般入試(B方式)を受験する自宅外通学予定者。給与所得世帯においては700万円未滿、給与所得世帯以外においては292万円未滿の者。
【申請期間】平成29年12月1日～15日
【給付までの流れ】書類審査→内定(選考結果は10月中旬に、本人と学校長に通知)→出願・受験・合格・入学手続→正式採用

立教大学 セントポール奨学金

【給付額】年額40万円(理学部は60万円)
【給付期間】4年間(学業成績、収入基準により継続審査あり)
【採用者数】250名
【応募条件】一般入試またはセンター利用入試を受験する者で評定平均値が4.0以上。主たる家計支持者の収入・所得金額が給与所得世帯においては500万円未滿、給与所得世帯以外においては150万円未滿であること。
【申請期間】平成30年1月5日～1月24日
 一般入試出願期間と同一日程。
【給付までの流れ】書類審査→出願・受験→内定(選考結果は2018年2月16日に、本人へ通知)→合格発表

入試前予約型奨学金制度を導入または導入予定の大学を紹介したが、これ以外に入学後の申請で採用される奨学金制度を導入している大学は多い。給付型の奨学金も多いので、自分の志望している大学の奨学金制度は一度調べてみると良いだろう。

